財団法人 日本自転車競技連盟 広報誌

Cyclism ech
シクリスムエコー

www.jcf.or.jp

全日本シクロクロス選手権エリート（右端が優勝の辻浦）

シクリスムエコーNo.125　2006年1月号

新年のご挨拶 …… 2

第25回アジア自転車競技選手権大会 …… 2
第12回アジア･ジュニア自転車競技選手権大会 …… 2

第11回全日本シクロクロス選手権大会 …… 6
シクロクロス WCSセレクション･シリーズ総合順位 …… 7

2005年世界室内自転車競技選手権大会 …… 8

第36回全日本室内自転車競技選手権大会 …… 9

2005年度ロード特別強化合宿 …… 10

05-06 UCIトラックワールドカップ･クラシクス＃2 ･ 11

第10回ツアー･オブ･サウスチャイナ･シー代表選手団 ･･ 12
ロッテルダム6日間レース日本代表選手団 …… 12
05-06 UCIトラックワールドカップ＃3代表選手団 ･･ 12
2006年シクロクロス世界選手権代表選手団 …… 12
連盟の動き …… 12

新年のご挨拶

財団法人 日本自転車競技連盟
会 長 岩楯 昭一

平成18年の幕開けにあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
平素は本連盟の諸事業にご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、昨年を顧みますと、日本国内ではJR脱線事故、耐震強度偽造問題、児童殺害問題等暗い話題が続きました。
また、自転車競技界においても、取り巻く環境は年々厳しさを増すばかりであります。
しかしながら本連盟としては、今後、組織の再整備を見据えながら重要課題である財源の確保、登録制度、ランキング制度等諸問題を解決していかなければなりません。
競技面では、昨年ナショナルチーム、強化指定選手を再編成し、世界選、ワールドカップ、アジア選手権等国際大会に派遣いたしました。
本年は、2年後に開催される北京オリンピックに向け、長期的、具体的な強化計画を策定し、アテネ以上のメダルが獲得できる様、強化合宿、国際大会への派遣等連盟関係者一丸となって邁進する所存であり、皆様方の絶大なるご支援とご協力を重ねてお願い申し上げる次第であります。
最後になりましたが、この一年皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

第25回アジア自転車競技選手権／第12回アジア・ジュニア自転車競技選手権

12月8日成田発のインドエアラインで福田公生監督を始めとする日本代表選手団23名（女子3名は先乗り）がデリーへと向かった。

デリー空港到着後、入国手続きに手間取り空港ロビーへ出たのが1時間以上遅れた19時過ぎである。インド車連が出迎えてくれているはずであったが、姿などどこにもない。それから1時間経過して2名の担当者が現われた。現地観光代理店のサンジーブ・ベルマ（通称サンちゃん）さんを介してトラックはどこにあるのかと聞いたところ、指示がなかったから今日は用意していないと冷たい返事であった。きちんと到着時間から何から手配したはずなのに。仕方なく空港に隣接している一時預かり所に自転車と大きな荷物を預けることにした。ルディアナまでのバスは明朝9時にデリー空港に到着するということを確認し、サンちゃんの案内によりデリー市内西部のホテルへ移動。その移動中のバスの中で、サンちゃんから「皆さん、まずインドに来たら、日本でのことはすべて忘れてください。インドと日本では、宗教、人種、習慣、言葉、文化、環境、その他すべてが違います。それに対して、おかしいと思ってはいけません。インドではそれが当たり前という考え方にならなければやっていけないし、特にインド時間に対して怒ってはいけません。」と釘を刺された。40～50分後ホテルに到着。軽い食事を摂り、休む。

12月9日、8時にホテルを出発し、デリー空港へ向かう。空港内の一時荷物預かり所から荷物を取り出し、インド車連指定のトラックに積み込み、9時にいざ出発。と思いきや、車連関係者からレバノン選手団が来るようなのでちょっと待ってくれと声が掛かった。インド時間との戦いが始まっている。10時が過ぎた頃になって、どうもレバノンは来ないようだということになり、ようやくバスが出発した。デリー空港からルディアナまでの長い一日の始まりである。選手団23名と今回の通訳であるM.P.シンさん（シンちゃん）の合計24名を乗せたバスは順調にデリー市内を進むかに思えたが、1時間も走らないうちに、15kmオーバーのスピード違反で取調べを受けるため停車する。

その後警察の検問を数回受けた後、16時に遅いランチを摂る。目的地のルディアナには、延べ10時間以上かかり20時30分に到着した。

12月10日、6時に福田監督とロードに出場の男女選手を始め、他国の選手・スタッフも同様にバスの到着を待つが、7時になっても、8時になっても来ない。8時30分中止と決定した。朝食後、トラック組はパンジャブ州立農業大学構内にあるベロドロームで、ロード組は大学構内の道路でそれぞれ練習を行う。

昼食は、大学構内の施設で食べたが、24カ国も参加して50人も座ったらいっぱいになる程度しか席がないのだ。階段に座ったり、立って食べたりした。

この日は、16時から大学構内を出て5分のところにあるサーキットハウスで監督会議が開催される。福田監督と私とシンさんの3人で会場に赴く。ロードのスケジュールの説明があったが、各国から今日の視察バスの件で主催者に噛み付くが、申し訳なかったの一言でおしまいだ。自分たちの主張以外聞き入れないのである。夕食は大学構内に食べに行くが、昼と同じように席が空くまで待つのである。夕食後、ホテルでスタッフミーティングを開き、明日のロードの時間設定を行う。

大会初日の12月11日、6時50分に福田監督、鬼原メカ、石田マッサーに、男女エリート、ジュニア5名とともにデラックスバスに乗り、ロードのスタート地点まで45分揺られる。

7時35分スタート地点に到着。競技初日は8時から男子エリート個人TTが行われ、飯島誠が9位。続いて行われた女子エリート個人ロードレースでは集団でゴールしたものの萩原が6位、佃が7位、森本が11位となった。また、男子ジュニア個人TTは、角がUAE選手と11秒差の4位に留まった。1分間隔でスタートのはずが、20秒や40秒に縮まってスタートした選手もおり、僅差勝負だった韓国とイラン選手の1、2位の決定が随分遅れた。

この日も朝から100m先が見えない。もやかと思えば、実は排気ガス規制が実施されておらず、その影響で常に光化学スモッグに覆われている状態なのである。その上、埃と塵にまみれた空気を吸っているのだから、たまったものではない。

お昼にホテルへ戻り昼食を済ませた。夕食時は大学構内までバスで出かけたのだが、帰りに思いもつかないことが起こった。食事会場からバスに乗って3分、ベロドロームのゲートを出てすぐにバスが停車し、運転手が走ってどこかに行ってしまった。何か訳があってのことと最初は気にも留めなかったが、いくら経っても帰ってこない。何のことはない、運転手は他の同僚としゃべっているのだ。ようやくバスが動いたのは40分後であった。

大会2日目の12月12日は女子エリートTTと男子ジュニア個人ロードレースが行われた。8時30分からの女子TTには、萩原が3番目でスタート。序盤は軽快に走るものの後半ペースが上がらず4分19秒差の4位。9時45分からの男子ジュニア個人ロードには55名が参加、日本からは高校生の角、兼平、佐伯、中野と日大の川西の5名が出場。日本選手は前半から先頭集団に位置し、牽制しながら進むもののゴール1km手前、集団後方でイラン選手が落車した。それに川西、角、兼平が巻き込まれ落車。再乗したものの遅れをとる。最後まで先頭集団でいいポジショニングをとった中野が1車輪及ばなかったものの健闘し銀メダルを獲得した。

この日の午後から、ジュニアを中心に体調に異変が起こってきた。食べ過ぎと食べたことのない香辛料が急激に入ったものだから、胃腸がたまらなくなったのだ。下痢症状が続出した。

大会3日目の12月13日は8時30分より男子エリート個人ロードレースが行われ、飯島誠、西谷、盛、飯島規之、佐藤の5名が出場した。入賞はならなかったもののトップから僅差の着位になった模様だが、当日はもちろん、毎日主催者に要求したが、大会が終了して日本に帰ってきてからも未だにリザルトがない。インディアタイムなのだ。13日の夜から大学へは食事に行かないでホテルで食べることにした。

16時のトラック競技監督会議のため、福田監督と通訳のシンちゃんとともにサーキットハウスに向かった。15時45分に着いたが誰も来ない。16時過ぎから集まってきたが開始したのは17時15分である。

大会4日目の12月14日、きょうからトラック競技の開始だ。男女のスプリント予選と男子エリート・ジュニアのエリミネーション決勝が行われた。当初は8時から競技開始予定であったが、バンクが凍り付いて乾かさなければならないが、何を思ったか焚き火を始めたのだ。その木を持って乾かそうというのだ。バンクに近づければ当然、灰が落ちる。それを掃きとる。これが延々と続き、10時30分になってようやく開始となった。

まず、女子エリートスプリント予選に佃が出場したが5位となり、5-8位決定戦にまわることになった。男子ジュニアスプリント予選は、佐々木、小原が出場し、小原が3位、佐々木が7位で2回戦に進出。男子エリートスプリント予選には北津留と屋良が出場し、北津留が3位につけたものの屋良は10位で予選敗退した。続いて行われた男子ジュニアエリミネーションには、佐伯と中野が出場し、常に前に位置した佐伯が健闘し銀メダルを獲得した。

昼食をはさんで、午後からマーチ演奏、開会式が行われた。

開会式終了後の午後4時過ぎから男子エリミネーションがスタート。中村と佐藤が出場。序盤から常にいい位置にいた中村が、内に詰まった他選手とハウスし落車。万事休す。調子が良かっただけに残念であった。佐藤は、前日のロードの疲れも見せず、あごが上がりながらも9位と健闘した。

競技終了後、ロード競技の表彰式が行われた。日本選手は唯一人、男子ジュニア個人ロードで銀メダルを獲得した中野が表彰台に立った。

12月15日、大会5日目。9時から男子ジュニア個人追抜予選に川西、角が出場した。川西が3分44秒87、角が3分44秒94と本来の実力を出し切れないまま、平凡なタイムで5位、6位。続いて行われた女子個人追抜予選には、森本と萩原が出場したものの、思うようなタイムが出せず森本が8位、萩原が9位。男子エリート個人追抜では、盛が6位、西谷が8位に終わった.続いて11時30分過ぎから男子ジュニアスプリントの1/4決勝が行われたが、小原、佐々木ともに健闘及ばず敗退し5-8位決定戦に回った。午後に入り、男子エリートのスプリント1/4決勝では、北津留が韓国のJEON YEONG GYUと対戦、危なげなく勝ち上がった。

翌12月16日、大会6日目。9時からの男子ジュニア団体追抜予選には、角、川西、兼平、佐伯が出場し3位で通過。4位のイランと17日の3-4位決定戦に進出した。10時5分からの男子エリート団体追抜予選には、飯島規、飯島誠、西谷、盛が出場し、4分35秒153のタイムで3位通過し、4位のマレーシアと3-4位決定戦で争うことになった。

11時50分からは、女子スプリントの5-8位決定戦が行われるはずであったが、急遽、主催者の都合で行わないことになった。

午後に入り、12時20分から男子エリートスプリントの1/2決勝が行われ、北津留が韓国のKIM CHI BUMと対戦しストレートで破り、決勝に進出した。

昼食後、まず男子ジュニアスプリント5-8位決定戦が行われ、小原が最終ホームからカマシ先行しそのままゴールし5位、佐々木も番手を死守し6位といいレースをした。

15時、男子エリートスプリントが行われた。北津留は2本とも中国のZHANG LEIを圧倒し完勝。今大会日本人初の金メダルを獲得した。これに勢いづき、15時30分からの男子ジュニアポイントレース決勝に角と兼平の2名が出場し、角が中盤からポイントを積み重ね銀メダルを獲得した。しかしな

がら、2回目のポイント周回でポイントを獲得した兼平が、その直後に他選手と接触し落車。途中棄権となる。今日の競技は終了。インドに入ってから下痢などで体調を崩す者が出たが、徐々に回復してきたようだ。

12月17日、大会7日目。最初の男子ジュニア団体追抜で角、川西、兼平、佐伯の日本チームは、4分38秒682のタイムでイランを圧倒し3位入賞を果たした。続いて行われた男子エリート団体追抜でも、飯島規、飯島誠、西谷、盛が僅差でマレーシアを下し3位入賞を果たした。

11時から行われた男子ジュニアケイリンは、小原、中野が出場。2人とも予選

を突破し、午後の決勝へ進出した。また、男子エリートケイリンは北津留と屋良が出場。北津留は難なく決勝に進んだものの、屋良は力を出し切れず予選落ちとなった。

14時からは女子エリートのポイントレース決勝が行われ、萩原と佃が出場した。序盤は地元インドのCHAOBA DEVINが健闘したものの、5回目のポイント周回から韓国のSUN E UNGUが一気に出て1ラップするなど周回ポイントも確実に重ねていった。萩原も後半1ラップし、その後逃げて独走体制に入り、フィニッシュもトップで通過した。手元の集計では1ポイント萩原が勝ったはずであったが、結果は韓国選手に2ポイント及ばず2位となった。残念であったが、体調が良くなった萩原が我々の前で初めて笑顔を見せた。佃は、3回目のポイント周回で1ポイント、最終のポイント周回で2ポイントの合計3ポイントを獲得し10位と健闘した。

15時男子ジュニアケイリン決勝である。日本、韓国各2名、中国、マレーシア各1名の計6名で争われた。中野、小原はスタートから前を取れず、様子を伺うが、最終前回4コーナーから韓国選手が逃げの体制をとり決まったかに見えたが、3番手からまくった中国のQIMING WANGが快勝。韓国選手が2、3位、小原、中野は踏み遅れて5、6位に留まった。

続いて15時30分から男子エリートの決勝が行われた。最終手前からいい位置取りをした韓国のチョウ・ホ・ソンが先行した。最後方に置かれた北津留は2コーナーから踏み込み、渾身のまくり追い込みを見せたが微差及ばず2位に甘んじた。

12月18日、大会最終日となった。9時30分から男子ジュニア、男子エリート、女子エリートのチームスプリントが順次行われた。男子ジュニアは7チームが出場、日本は小原、佐々木、中野が予選2位通過し決勝に進出した。男子エリートは、新田、屋良、北津留が、女子エリートは森本、萩原、佃がそれぞれ出場したが、うまくかみ合わず予選敗退した。

続いて男子ジュニア、女子エリート、男子エリートのスクラッチが行われ、男子ジュニアでは、終始先頭に食らいついた佐伯が5位、川西が13位。女子エリートは、佃がうまいレース運びをしたが惜しくも4位、森本は10位。男子エリートは積極果敢に攻めた盛が銀メダル、飯島規も安定した走りを見せ5位と健闘した。

午前中の予選を受けて男子ジュニアチームスプリントの決勝が日本とマレーシアの間で行われた。いいスタートを切った日本チームだったが、最初の2センターで佐々木と中野が接触しタイムをロスした。ロスがそのままタイムに出て僅差ではあったがマレーシアに遅れをとり2位に終わった。

昼食後、男子エリートのポイントレースが行われ、飯島誠、西谷が出場。序盤からカザフのALEXEY LYALKOと韓国のJUNG HWAN YOUMと飯島の3人の争いとなり、お互い駆け引きが続いたが、14回目のポイントでALEXEYが5ポイントを獲得し勝負がついた。飯島は61pで3位、西谷は14pで6位となった。これで全種目が終了。長かった8日間の大会に幕を閉じた。

このアジア選手権を振り返って見ると、おかしなことばかり続いたものである。まず、宿泊費であるが、主催者は1人1日いくら掛かるというメールを送ったと言い張り、しかも現金で払えという。調べても未だにそんな物は届いていない。まともな競技運営もできず、スタートリストはもちろん、満足な

リザルトも出てこない。挙句の果ては、3日目の男子エリート個人ロードのリザルトは帰国してからも出てきていない。やることなすことが、すべて幼稚園以下だ。これがUCI公認の大会かと思うほどひどい内容であった。

なぜならば、このアジア選手権を仕切っている人物が1980年代のインドで行われたアジア大会の頭しかない人だったのである。他国からも、なぜインドでアジア選手権を開催したのか理解に苦しむという声をたくさん聞いた。

さて、19日は帰り支度だ。早めに就寝。20日は16時30分起床、17時バスでホテルを出発の予定が、40分遅れで出発。いざデリーをめざしてゴーといいたいところであったが、5分後にバスの給油を行う。その後、ハイウエーといわれる道を5～6回の警察官の検問を経て、午後2時30分にデリー空港に到着する。ここで、12日間ガイドとして一緒に過ごしたシンちゃんと別れを告げる。見送りに来たサンちゃんとも別れを惜しむ。19時、30分遅れでデリー空港を発ち、21日8時過ぎに無事成田空港に到着した。荷物の仕分け後、全員の今後の健闘を誓って解散した。これで、インド道中記は幕を閉じる。　（三浦 廣信）

［競技結果］（日本出場種目のみ）

第25回ｱｼﾞｱ自転車競技選手権大会（2005/12/11-18 ｲﾝﾄﾞ・ﾙﾃﾞｨｱﾅ）

男子個人ﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ（35km）

1	YOUM UNG HWAN	KOR	44:08.85
2	ASKARI HOSSEIN	IRI	44:42.06
3	VLADIMI TUYCHIEV	UZB	45:07.18
9	飯島　誠	JPN	47:36.45

男子個人ﾛｰﾄﾞﾚｰｽ（140km）

1	JOO HYUN WOOK	KOR	3:17:18.89
2	HASANIN OMAR	SYR	3:17:21.52
3	GRUZDEV DMITRIY	KGZ	3:17:25.51
	以下不明		

男子ｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	北津留　翼	JPN	
2	ZHANG LEI	CHN	
3	GAO YAHUI	CHN	
	屋良　朝春	JPN	予選敗退

男子ｹｲﾘﾝ

1	HO SUNG CHO	KOR	
2	北津留　翼	JPN	
3	LIE ZHANG	CHN	
	屋良　朝春	JPN	予選敗退

男子4km個人追抜競走

1	JANG SUN JAE	KOR	4:42.918
2	LYALKO ALEXEY	KAZ	4:55.001
3	JOO HYUN WOOK	KOR	4:53.261
6	盛　一大	JPN	4:57.897
8	西谷　泰治	JPN	5:00.667

男子ｴﾘﾐﾈｲｼｮﾝ

1	PARK SUNG BAEK	KOR
2	ALEXEY LYALKO	KAZ
3	LIM BYUNK HYUN	KOR
9	佐藤　博紀	JPN
14	中村　健志	JPN

男子ｽｸﾗｯﾁ（12km）

1	TAE BOK YOU	KOR
2	盛　一大	JPN
3	ALEXEY ZAITSEV	KAZ
5	飯島　規之	JPN

男子ﾎﾟｲﾝﾄﾚｰｽ（30km）

1	ALEXEY LYALKO	KAZ	68p
2	JUNG HWAN YOUM	KOR	62p
3	飯島　誠	JPN	61p
6	西谷　泰治	JPN	14p

男子ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	CHN	1:02.348
2	KOR	1:03.815
3	MAS	1:05.626
	日本　新田・屋良・北津留	予選敗退

男子4km団体追抜競走

1	KOR	4:25.462
2	IRN	4:28.979
3	日本　飯島規・飯島誠・西谷・盛	4:33.334

女子個人ﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ（25km）

1	LI MEIFANG	CHN	33:07.89
2	HAN SONG HEE	KOR	34:59.03
3	HUANG HO HSUN	TPE	36:46.51
4	萩原麻由子	JPN	37:26.16

女子個人ﾛｰﾄﾞﾚｰｽ（60km）

1	YOU JINA	KOR	1:47:53.44
2	NI FENGHAN	CHN	1:47:53.49
3	UYUN MUZIZAH	INA	1:47:53.59
6	萩原麻由子	JPN	1:47:54.31
7	佃　咲江	JPN	
11	森本　朱美	JPN	

女子ｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	ZHANG LEI	CHN
2	GAO YAWEI	CHN
3	JIN GU HYON	KOR
5	佃　咲江	JPN

女子3km個人追抜競走

1	LIU YONGLI	CHN	3:56.475
2	HAN SONG HEE	KOR	4:01.290
3	GU SUN EUN	KOR	4:05.170
8	森本　朱美	JPN	4:18.033
9	萩原麻由子	JPN	4:20.938

女子ｽｸﾗｯﾁ（8km）

1	SOO HYUN KIM	KOR
2	MEI YU HSIAO	TPE
3	NORA ZIAN ALIAS	MAS
4	佃　咲江	JPN
10	森本　朱美	JPN

女子ﾎﾟｲﾝﾄﾚｰｽ（20km）

1	SUN E UN GU	KOR	44p
2	萩原麻由子	JPN	42p
3	NORA ZIAN ALIAS	MAS	27p
10	佃　咲江	JPN	3p

女子ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	CHN	1:11.286
2	KOR	1:11.062
3	TPE	1:15.679
	日本　森本・萩原・佃	予選敗退

第12回ｱｼﾞｱ・ｼﾞｭﾆｱ自転車競技選手権大会（2005/12/11-18 ｲﾝﾄﾞ・ﾙﾃﾞｨｱﾅ）

男子個人ﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ（25km）

1	NATEGHI HOSSEIN	IRI	31:57.96
2	LEE JIN WOO	KOR	33:03.23
3	BIN TOOK MOHAMED	UAE	34:03.35
4	角　令央奈	JPN	34:14.51

男子個人ﾛｰﾄﾞﾚｰｽ（70km）

1	KILIBAYEV ALEXANDR	KAZ	1:35:03.07
2	中野　彰人	JPN	1:35:03.16
3	BIN TOOK MOHAMED	UAE	1:35:03.28
15	兼平　純	JPN	1:35:32.89
18	佐伯　翔	JPN	1:35:52.33
19	川西　貴之	JPN	1:36:02.72
28	角　令央奈	JPN	1:36:25.99

男子ｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	WANG OIMING	CHN
2	KANG DONG JIN	KOR
3	CHOI LAE SEON	KOR
5	小原　将通	JPN
6	佐々木吉徳	JPN

男子ｹｲﾘﾝ

1	QIMING WANG	CHN
2	JIN WOO LEE	KOR
3	LAE SEON CHOI	KOR
5	中野　彰人	JPN
6	小原　将通	JPN

男子3km個人追抜競走

1	HWANG IN HYEOK	KOR	3:32.733
2	KUPESHOV BERIK	KAZ	3:36.310
3	NATEGHI HOSSEIN	IRI	3:34.830
5	川西　貴之	JPN	3:44.870
6	角　令央奈	JPN	3:44.940

男子ｴﾘﾐﾈｲｼｮﾝ

1	HWAANG IN HYEOK	KOR
2	佐伯　翔	JPN
3	KANG DONG JIN	KOR
15	中野　彰人	JPN

男子ｽｸﾗｯﾁ（8km）

1	HARRIF SALLEH	MAS
2	JI HUN YU	KOR
3	JOON YONG SEO	KOR
5	佐伯　翔	JPN
13	川西　貴之	JPN

男子ﾎﾟｲﾝﾄﾚｰｽ（20km）

1	BERIK KUPESHOV	KAZ	34p
2	角　令央奈	JPN	20p
3	HOSSEIN NATEGHI	IRI	17p
	兼平　純	JPN	DNF

男子ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	MAS	1:06.241
2	日本　小原・佐々木・中野	1:08.133
3	TPE	1:08.619

男子4km団体追抜競走

1	KOR	4:34.019
2	KAZ	4:35.627
3	日本　角・川西・兼平・佐伯	4:38.682

第 11 回全日本シクロクロス選手権大会

男子スタート

去る12月11日、大阪府堺市の「海とふれあい広場」において、第11回全日本シクロクロス選手権大会が開催された。

午前10時、女子クラスは9名でスタート。程なく、その中から豊岡が独走体制に入り、そのままフィニッシュ。

男子は午後1時30分にスタート。中盤、辻浦が先行。その結果12秒差で小坂を抑え優勝した。

またアンダー23の選手の中から、最上位の山本が表彰を受けた。

男子1位の辻浦（先頭）と8位の三船（2番目）

左から小坂、辻浦、白石

U23の最優秀者、山本（先頭）

先頭を引く辻浦

女子の勝者、豊岡（2点共）

［競技結果］

第11回全日本ｼｸﾛｸﾛｽ選手権大会
（2005/12/11 大阪・堺市海とふれあい広場）

Men

1	辻浦	圭一	ﾁｰﾑﾌﾞﾘﾁﾞｽﾄﾝ・ｱﾝｶｰ	58:36
2	小坂	正則	ｽﾜｺﾚｰｼﾝｸﾞﾁｰﾑ	58:47
3	白石	真悟	ｼﾏﾉﾄﾞﾘﾝｷﾝｸﾞ	59:00
4	山本	幸平	国際ｱｳﾄﾄﾞｱ専門学校	59:09
5	丸山	厚	ｽﾜｺﾚｰｼﾝｸﾞ	1:00:09
6	辻	善光	立命館大学	1:00:11
7	石井	陽	立命館大学	1:00:38
8	三船	雅彦	ﾐﾔﾀ ｽﾊﾞﾙR	1:00:40
9	鈴木	雷太	ﾁｰﾑﾌﾞﾘﾁﾞｽﾄﾝ・ｱﾝｶｰ	1:00:55
10	大原	満	愛三工業	1:01:46

Elite Women

1	豊岡	英子	bicinoko.com	35:23
2	田近	郁美	GOD HILL	35:54
3	酒井	真清	Testach Racing	36:51
4	池田	桂子	Testach Racing	37:51
5	志村みち子		ｴｷｯﾌﾟあづみの	38:19
6	深井	薫	GARY FISHER	39:01
7	森	涼子	京都大学	39:31
8	狩俣けい子		Testach Racing	40:17

限界挑戦事務

女子スタート

シクロクロス WCSセレクション・シリーズ総合順位

＜EliteMen＞

第1位
辻浦　圭一
ﾁｰﾑ
ﾌﾞﾘﾁﾞｽﾄﾝ・ｱﾝｶｰ
160p

2	小坂	正則	ｽﾜｺﾚｰｼﾝｸﾞﾁｰﾑ	102
3	丸山	厚	ｽﾜｺﾚｰｼﾝｸﾞ	83
4	白石	真悟	ｼﾏﾉﾄﾞﾘﾝｷﾝｸﾞ	60
5	三船	雅彦	ﾐﾔﾀ ｽﾊﾞﾙR	45
6	鈴木	雷太	ﾁｰﾑﾌﾞﾘﾁﾞｽﾄﾝ・ｱﾝｶｰ	31
7	深谷	幸彦	MXｽﾄｰｸ	30
8	大原	満	愛三工業	24
9	曽我	暁男	ｸﾞｯﾄﾞｳｨﾙｽﾎﾟｰﾂﾗｲﾌ	21
10	中田	公成	Team-BIG	20
11	山田	夏樹	GAS PANIC SP	15
12	山辺	誠司	ﾁｰﾑ埼玉県人	13
13	嶋木	勉	幌加内高校	12
14	入江	克典	ｼﾏﾉﾄﾞﾘﾝｷﾝｸﾞ	11
15	木村	将行	なるしまﾌﾚﾝﾄﾞ	10
16	阿部	良之	ｼﾏﾉﾒﾓﾘｰｺｰﾌﾟ	10
17	松本	文秀	GAS PANIC SP	10
18	松本	駿	TREK	8
19	猪股	靖	ﾃﾞ・ｼｸﾛ・ﾍﾟﾀﾞﾘ	8
20	浜	久之	ｽﾜｺﾚｰｼﾝｸﾞﾁｰﾑ	6
21	山崎	武司	ONO&CF	6
22	山本	聖吾	VOLCA-CCM	4
23	杉村	宗弘	日本ｱｲﾗﾝﾄﾞ・あづみの	4
24	久保	伸次	Foobar Network	2
25	武藤	常雄	TARGET	2
26	中間森太郎		ﾁｰﾑ埼玉県人	2
27	澤田	泰征	転倒虫	1

＜U23＞

第1位
山本　幸平
国際ｱｳﾄﾄﾞｱ
専門学校
87p

2	石井	陽	立命館大学	37
3	辻	善光	立命館大学	30
4	飯塚	隆文	ｽﾜｺﾚｰｼﾝｸﾞ	21
5	小野寺	健	TREK Japan	15

＜EliteWomen＞

第1位
豊岡　英子
bicinoko.com
135p

2	田近	郁美	GOD HILL	120
3	酒井	真清	Testach Racing	62
4	志村みち子		ｴｷｯﾌﾟあづみの	60
5	池田	桂子	Testach Racing	50
6	深井	薫	GARY FISHER	25
7	森	涼子	京都大学	25
8	狩俣けい子		Testach Racing	23
9	三井	由香	ﾍﾞﾛﾁｽﾀﾊﾟｰﾙｽｷﾞﾉ	4

2005年世界室内自転車競技選手権大会

サイクルサッカー（日本対クロアチア）

サイクルフィギュアの堀井

サイクルフィギュアの芦田

サイクルフィギュアの佐浦

2005年世界室内自転車競技選手権大会は、欧州を中心に19の国と地域の選手が参加して11月25日から3日間、ドイツ南西部のフライブルク市で開催された。

我々日本選手団は、長年の悲願であるサイクルサッカーAグループ昇格を最大目標にして、フランクフルト周辺での地域大会や親善試合で最終調整を行って大会に臨んだ。

大会では、都築勝巳・松田 鋼のサイクルサッカー日本チームが順調にトルコ、マレーシア、オランダ、スロバキアを下してBグループ1組の1位となり、Bグループ決勝戦は、2組1位のクロアチアとの対戦となった。

試合は、開始直後に2点を奪われ、攻撃も完全に抑えられたまま前半が終了、後半1分に松田選手がシュートを決めたものの、残り1分に決定的な1点を奪われ、セットプレーから都築選手が1点返したところで終了、悲願は果たせなかった。Aグループはドイツが優勝、グループ入替え戦はAグループ全敗のフランスがクロアチアを下して残留を決めた。

サイクルフィギュアの男子シングルに出場した佐浦裕行と芦田史朗は、共に安定感を欠き、落車による時間ロスもあって最後の技まで演技出来ず、大きく減点されて佐浦選手が16位、芦田選手が17位、女子シングルに出場した堀井和美は、安定した演技で国際大会での自己ベストを更新して18位となった。

今大会から正式種目となった女子4人制はチェコが優勝したが、他のフィギュア種目は全てドイツが優勝した。

会場では、親善試合の相手選手が仲間と日本応援団を結成し、日の丸を振って声援してくれた他、連日満員の観客が、会場を何周もするウエーブやホーン、カウベル等の特色ある応援を楽しみ、大変な盛り上がりを見せてくれた大会であった。　（植本 昌之）

［競技結果］

2005年世界室内自転車競技選手権大会
（2005/11/25-27 ﾄﾞｲﾂ･ﾌﾗｲﾌﾞﾙｸ）

ｻｲｸﾙｻｯｶｰAｸﾞﾙｰﾌﾟ

1	Mike / Steve Pfaffenberger	GER
2	Berger / J. Hrdlicka	CZE
3	D. Schneider / S. König	AUT

ｻｲｸﾙｻｯｶｰBｸﾞﾙｰﾌﾟ

1	Mihael Posedi / Jasmin Fazlic	CRO
2	都築　勝巳 / 松田　　鋼	JPN
3	Robert Rizmann / Dalibor Roznik	SVK

ｻｲｸﾙﾌｨｷﾞｭｱ男子ｼﾝｸﾞﾙ

1	David Schnabel	GER	343.97
2	Robin Hartmann	GER	342.54
3	Milan Krivanek	CZE	327.29
16	佐浦　裕行	JPN	252.07
18	芦田　史朗	JPN	234.09

ｻｲｸﾙﾌｨｷﾞｭｱ女子ｼﾝｸﾞﾙ

1	Claudia Wieland	GER	328.60
2	Sandra Beck	GER	325.65
3	Denise Boller	AUT	323.57
18	堀井　和美	JPN	263.85

第36回全日本室内自転車競技選手権大会

サイクルサッカー優勝のピンキーズ大阪

サイクルサッカー4位の舞馬と5位のNITTSU（縦縞）

12月10日と11日の2日間、大阪府住之江区のコスモスクエアー国際交流センター体育館で第36回全日本室内自転車競技選手権大会が行われた。

競技は2面のコートを使用して、サイクルサッカー・男女シングルサイクルフィギュアが分刻みに進められた。

競技結果は次ページをご参照下さい。

サイクルフィギュアの堀井

サイクルサッカー2位のケルビム東京の松田

［競技結果］

第36回全日本室内自転車競技選手権大会
（2005/12/10-11 大阪・ｺｽﾓｽｸｴｱｰ国際交流ｾﾝﾀｰ）

ｻｲｸﾙｻｯｶｰ

1 宮本 武彦・木下 直也 ﾋﾟﾝｷｰｽﾞ大阪
2 都築 勝巳・松田 鋼 ｹﾙﾋﾞﾑ東京
3 芦田 朋宏・宮川 廣平 神戸ﾗﾄﾞﾊﾞﾙｸﾗｯﾌﾟ
4 大野 和俊・芦塚 正博 舞馬
5 山本 勝敏・松本 恒治 NITTSU
6 武川 健・蓑原 征也 asics
7 森 茂史・森 貴秀 ﾁｰﾑ ﾌｼﾞ
8 森永 一輔・福本 剛士 福岡ｸﾗﾌﾞ

ｻｲｸﾙﾌｨｷﾞｭｱ男子ｼﾝｸﾞﾙ

1 佐浦ひろゆき 東京輪球会 272.58 pts
2 芦田 史朗 ｱﾝﾌｨﾆ京葉 268.91 pts
3 芝山 耕輔 東京輪球会 239.59 pts
4 竹中 誠 京滋C.F.C 215.10 pts

ｻｲｸﾙﾌｨｷﾞｭｱ女子ｼﾝｸﾞﾙ

1 堀井 和美 京滋C.F.C 264.68 pts
2 宮崎 沙織 東京輪球会 239.37 pts
3 佐藤 凪沙 京滋C.F.C 231.94 pts
4 井上 梓 京滋C.F.C 223.34 pts

第1回ｱｼﾞｱｲﾝﾄﾞｱｹﾞｰﾑﾊﾞﾝｺｸ大会
（2005/11/17 ﾀｲ・ﾊﾞﾝｺｸ）

ｻｲｸﾙｻｯｶｰ

1 日本（轡田哲郎・橋本太郎）
2 ﾎﾝｺﾝ
3 ﾀｲ
4 ﾏｶｵ

2005年度ロード特別強化合宿

2005年12月1日から10日まで、静岡の日本サイクルスポーツセンターを基点にロード特別強化合宿が行われた。

参加選手は、Discoveryの別府、NOBILIの沖を含む、U23・女子・ジュニアの12名で、周辺のロードトレーニングの他、ウエートトレーニング、講義などが行われた。

また同時期（12月1日～7日）に行われた「アジア選手権事前合宿」（選手15名参加）にも合流し、トラックトレーニングも行われた。

末永くお付き合いいただくために。

シマノ製品をご愛用いただきまして
ありがとうございます。
シマノではユーザーの皆様に、当社製品と
末永くお付き合いいただけるよう、
各種補修用パーツをご用意しております。

●製品についている取扱い説明書をご使用の前に必ずお読みください。
●機能保証のために分解できないパーツもあります。
●お近くの自転車店でご相談下さい。別途送料がかかる場合があります。
●在庫状況により、品切れの場合もあります。予めご了承下さい。

SHIMANO
www.shimano.com

XBC001-A

05-06 UCIトラックワールドカップ・クラシクス＃2

ワールドカップ第二戦は、イギリス・マンチェスターにて38ヶ国・288人の参加で行われた。

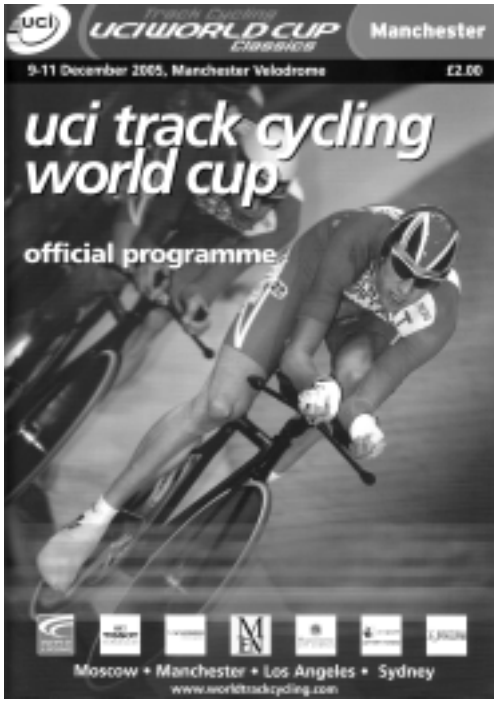
我が日本チームからは、及川裕奨・成田和也・藤田竜矢・濱田浩司、さらに最終日に行われる「インターナショナルケイリン」には、渡邉晴智・稲村成浩・金子貴志・荒井崇博らが参戦した。

まずはケイリンで及川が出走。5番手でまわり、主導権を取りに前に行こうとするが、前方の選手と踏み出しが合ってしまい、外となり万事休す。最後の敗者復活はフランスのトゥルナンを後ろに付け先行したが2着、タイムは10.7秒で終わった。

1kmの藤田はローラー練習中に落車、そして発走前のフレームチェックでクレームがあった為、走る前に神経を使い平凡なタイムに終わる。

スプリントは46人出場、予選200mでは本戦出場の条件は上位16名だが、成田は10.802秒で22位、濱田は10.841秒で26位という結果であった。

チームスプリントは濱田・成田・及川で挑んだが、スタートからスピードに乗ることができず46.794秒でゴール、結果16チーム中9位であった。



インターナショナルケイリンは今大会から発走直前に抽選が行われ、出走メンバーとコースがその場で決定し、そしてすぐに予選が始まるようになった。

第1ヒートは金子。金子はスタートから5番手。このレースは動きがあまりなくマクリーンがそのまま先行でゴールし、金子もそのまま5着であった。

第3ヒートは稲村、渡邉、荒井が同じ組になった。これが抽選の面白さ、怖さであろう。まずスタートで稲村、荒井、渡邉が並んだ。そしてペーサー退避時にホイ、ボスのもがき合いになり、結果はボスが1着、荒井4着、稲村6着、渡邉7着となり日本勢は敗者復活戦に臨んだ。

復活戦では稲村がまくりを決めて、ただ一人勝ち上がり2回戦に進むことができた。しかし2回戦では6着となり7-12位決定戦と相成った。決定戦では内に詰まり5着。結果11位に終わった。　（阿部 良二）

［競技結果］

05-06UCIﾄﾗｯｸﾜｰﾙﾄﾞｶｯﾌﾟｸﾗｼｸｽ＃2
（2005/12/9-11 ｲｷﾞﾘｽ・ﾏﾝﾁｪｽﾀｰ）

男子ｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	BOS Theo	NED	
2	MULDER Teun	NED	
3	BOURGAIN Mickaël	FRA	
	成田　和也	JPN	予選敗退
	濱田　浩司	JPN	予選敗退

男子1kmﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ

1	HOY Chris	GBR	1:01.922
2	QUEALLY Jason	GBR	1:02.158
3	VELDT Tim	NED	1:02.918
12	藤田　竜矢	JPN	1:06.869

男子ｹｲﾘﾝ

1	LEVY Maximilian	GER	
2	ESCUREDO RAIMONDEZ José Antonio	ESP	
3	NG ONN LAM Josiah	MAS	
	及川　裕奨	JPN	1回戦敗退

男子ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	GREAT BRITAIN	45.035
2	NETHERLANDS	45.115
3	GERMANY	45.642
9	日本（濱田・成田・及川）	46.794

国際ｸﾞﾗﾝﾌﾟﾘ・ｹｲﾘﾝ

1	BOURGAIN Mickaël	FRA	
2	MACLEAN Craig	GBR	
3	BOS Theo	NED	
11	稲村　成浩	JPN	
	渡邉　晴智	JPN	1回戦敗退
	金子　貴志	JPN	1回戦敗退
	荒井　崇博	JPN	1回戦敗退

第10回ツアー・オブ・サウスチャイナ・シー 日本代表選手団

大 会 名　第10回ツアー・オブ・サウスチャイナ・シー
開催場所　ホンコン・チャイナ
大会日程　2005年12月26日～2006年1月2日
派遣日程　2005年12月24日～2006年1月3日
派遣選手団
監　督　福田　公生（JCF強化コーチ）
ﾒｶﾆｯｸ　鬼原　　積（JCF強化スタッフ）
選　手　飯島　　誠（JPCA・ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛ･ﾊﾟｰﾙｲｽﾞﾐ）
別府　　匠（JPCA・愛三工業）
西谷　泰治（愛知・愛三工業）
盛　　一大（愛知・愛三工業）
秋山　英也（長野・日本大学）

2005-2006 UCIトラック・ワールドカップ第3戦 日本代表選手団

大 会 名　2005-2006 UCIトラック・ワールドカップ第3戦
開催場所　アメリカ・ロサンゼルス
大会日程　2006年1月20日～22日
派遣日程　2006年1月16日～24日
派遣選手団
監　督　班目　秀雄（JCFヘッドコーチ）
コーチ　阿部　良二（JCFサブコーチ）
清水　賢二（JPCAコーチ）
ﾒｶﾆｯｸ　森　　昭雄（JCF強化スタッフ）
ﾏｯｻｰ　石田　宗男（JCF強化スタッフ）
選　手　濱田　浩司（JPCA・愛知）
及川　裕奨（JPCA・岩手）
成田　和也（JPCA・福島）
藤田　竜也（JPCA・埼玉）
西谷　泰治（愛知・愛三工業）

ロッテルダム6日間レース 日本代表選手団

大 会 名　ロッテルダム6日間レース
開催場所　オランダ・ロッテルダム市アホイスポーツパレス
大会日程　2006年1月5日～10日
派遣日程　2006年1月4日～12日
派遣選手　北津留　翼（JPCA 福岡）

2006年シクロクロス世界選手権 日本代表選手団

大 会 名　2006年シクロクロス世界選手権
開催場所　オランダ・ゼッダム
大会日程　2006年1月26日～29日
派遣日程　2006年1月25日～31日
派遣選手団
監　督　矢野　　淳
コーチ　沢田　雄一・Huub Kivit
ﾒｶﾆｯｸ　中津　　顕・松井　正史・Sjaak Van Der Loop
選　手
ｴﾘｰﾄ男子　辻浦　圭一（ブリヂストンアンカー）
小坂　正則（スワコレーシングチーム）
ｴｽﾎﾟﾜｰﾙ　山本　幸平（国際アウトドア専門学校）
ｴﾘｰﾄ女子　豊岡　英子（bicinoko.com）
田近　郁美（GOD HILL）
荻島　美香（アライレーシング）
ｼﾞｭﾆｱ　竹之内　悠（立命館宇治高校）
藤岡　徹也（クラブシルベスト）
伊澤　優大（Bee Club）

連盟の動き（11月下旬～12月下旬）

11月28日	第4回ロード競技部会	於：東京・自転車会館
12月 1日	アジア選手権強化合宿（～7日）	於：静岡・日本CSC
	ロード特別強化合宿（～10日）	於：静岡・日本CSC
2日	強化・競技運営委員会合同会議	於：東京・自転車会館
5日	トラック・ワールドカップ日本代表選手団出発	於：イギリス・マンチェスター（帰国→13日）
7日	第7回常務理事会・選手強化本部会	於：東京・自転車会館
	国際グランプリ・ケイリン日本代表選手団出発	於：イギリス・マンチェスター（帰国→13日）
8日	アジア選手権日本代表選手団出発	於：インド・ルディアナ（帰国→21日）
24日	ツアー・オブ・サウスチャイナシー日本代表選手団出発	於：ホンコン・チャイナ（帰国→1/3日）

シクリスムエコー No.125　2006年1月号
発　　行／財団法人 日本自転車競技連盟
発 行 人／岩 楯 昭 一
編 集 人／加 藤　　昭
編集事務局／財団法人 日本自転車競技連盟 事務局
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内
TEL 03-3582-3713　FAX 03-5561-0508
URL http://www.jcf.or.jp/

JCF協賛スポンサー
SUBARU 富士重工業株式会社
weider 森永製菓株式会社健康事業部
LA PISTA ラ・ピスタ新橋 株式会社サテライトジャパン

KEIRIN この資料および の表示がある事業は、日本自転車振興会から競輪収益の一部である公益事業資金の補助を受けたものです。
©（財）日本自転車競技連盟 2006 本紙掲載の写真、イラスト、ロゴマーク、ロゴタイプおよび記事の無断転載を禁じます。